

中 学 校

平成 30 年度

教育研究員研究報告書

特別の教科 道徳

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
1	授業における生徒の個人の表現や他者との関わりを記録する「座席表シート」	2
2	生徒の学習状況や変容を記録する「ワークシート」	3
3	生徒の学習の成果を蓄積する「振り返りシート」	4
III	研究仮説	5
IV	実践研究	5
V	研究の内容	6
1	研究構想図	6
2	検証授業	7
VI	研究の成果と課題	23
1	成果	23
2	課題	24

研究主題

道徳科における評価の工夫 ～三種の学習記録を用いた学習状況の見取り方を通して～

I 研究主題設定の理由

平成 27 年 3 月 27 日に、文部科学省は学校教育法施行規則を一部改正し、道徳に係る学習指導要領一部改正の告示を行った。この改定では、平成 26 年 10 月 21 日の中央教育審議会答申「道徳に係る教育課程の改善等について」（以下、「答申」と表記。）を受け、道徳教育の改善・充実を図るために「特別の教科 道徳」が教育課程上に新たに位置付けられた。いじめの問題への対応の充実や発達段階をより一層踏まえた体系的なものとする観点からの内容の改善、問題解決的な学習を取り入れるなどの指導方法の工夫を図ることなどが中学校学習指導要領解説総則編（抄）（平成 27 年 7 月）に示されている。このことは、道徳の授業において「特定の価値観を押し付けたり、主体性をもたず言われるがままに行動するよう指導したりすることは、道徳教育が目指す方向の対極にある。」、「多様な価値観の、時に対立がある場合を含めて、誠実にそれらの価値に向き合い、道徳としての問題を考え続ける姿勢こそ道徳教育で養うべき基本的資質である。」とする答申を踏まえ、発達段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の生徒が道徳的な問題と捉え向き合う「考える道徳」、「議論する道徳」への質的転換を意味するものである。

「特別の教科 道徳」の評価の在り方については、現行の中学校学習指導要領（平成 20 年 3 月告示 平成 27 年 3 月一部改正）では、各教科とは異なる位置付けであることから、総則に示されている全ての学校教育活動に共通した「生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価するとともに、指導の過程や成果を評価し、指導の改善を行い学習意欲の向上に生かすようにすること。」を踏まえ、「生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。」としている。このことは、「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）」（以下、「新学習指導要領」と表記。）の「道徳科における評価の意義」の中にも示されている。また、「生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。」と明らかにされた。しかしながら、文部科学省による最新の「道徳教育実施状況調査結果」（公立小中学校を対象として平成 24 年 5 月～6 月に実施）では、道徳教育を実施する上での課題として、42.7%の中学校教員が「指導の効果を把握することが困難である」と回答している。また、東京都教育庁指導部義務教育指導課による「道徳教育推進状況調査集計結果」（公立小中学校を対象として平成 30 年 2 月 23 日～3 月 30 日に実施）では、「特別の教科 道徳」を実施する上で「評価の方法に課題がある」と回答した学校が 86.6%に及んだ。これらのことから分かるように、道徳性の成長の捉え方と評価の方法等に課題がある。「特別の教科 道徳」の評価は一人一人の生徒の道徳科の授業における学習状況や道徳性に係る成長の様子を見取ることである。発言や会話、作文やワークシート等の具体的な生徒の姿を通じて、いかに成長したかを積極的に受け止めて、認め、励ます個人内評価が必須である。その際に

は、「生徒が一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているか」、「道徳的諸価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか」に着目する必要がある。特に著しいと認められる具体的な状況を記述することで成長を認め励ますことをねらいとしているが、学習状況や成長の様子をどのように見取るかについては各学校の創意工夫に委ねられている。

以上のことから、本研究では「道徳科における評価の工夫 ～三種の学習記録を用いた学習状況の見取り方を通して～」を研究主題とした。

II 研究の視点

設定した研究主題「道徳科における評価の工夫」を達成するために、本研究では三種の学習記録を活用することとした。三種の学習記録とは、座席表シート、ワークシート、振り返りシートである。

三種の学習記録を用いることで、「特別の教科 道徳」の「評価の意義」として示されている「生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子」を把握するとともに、授業改善を図ることができる。そのために、三種の学習記録を以下のように計画的・継続的に活用していく。

1 授業における生徒の個人の表現や他者との関わりを記録する「座席表シート」

生徒は授業中に、様々な表現方法やタイミングにより、個人で考えて表現したり、他者との関わりの中で自身の考えを生み出したりしている。しかし、授業者がこれを全て記憶し生徒の成長を把握することは困難である。そのための手だてとして授業者、T Tで行う場合はT 2が生徒の学習状況を見取り、座席表シートに記入する。

本シートは、「道徳科 指導と評価のガイドブック」（東京都教職員研修センター 平成30年3月）に示された「座席表シートAタイプ」を、授業者が生徒のどのような言動で学習状況を見取るのか設定して記入できるように改良したものである。授業前に日付、実施学級、教材名、そしてねらいを記入する。生徒の学習状況は、ねらいに沿って具体的な取組状況を見取り、記入する。例えば自己を見つめたもの、広い視野から多面的・多角的に思考しているもの、道徳的な価値の理解に関するもの、人間としての生き方に関するものについて、生徒の思考が表れた言動を記入するようにする。このような生徒の姿を捉えるために、授業前にねらいに沿ってどのような視点で見取るのかを明記しておく。これにより授業者の学習記録の観点が明確になる。また、T Tによる授業を行う場合には、中心に見取る具体的な発言や反応を、どのような項目にどのような内容で記録するのかを、事前にT 2に伝え、共通理解を図ることができる。

そして、どのような言動から学習状況を見取るかは、授業前に学習指導過程に沿って想定しておく必要がある。具体的には発表、グループワーク、ペアトーク、役割演技の発言、つぶやき、動作、心情円盤等の割合、自己の考えを表すために生徒が黒板に貼ったネームプレートの位置、書く活動等、様々なものが考えられる。さらに、授業前に実施したアンケート結果の内容、生徒の反応や発言の予想等も記入しておくこと、授業中の記録と比較して変容を見取ることができる。

授業を進めつつ該当する生徒の欄に端的に記入するが、1単位時間で全ての生徒の学習状況を見取ることが困難な場合には、あらかじめその時間で対象とする生徒や班を想定して実

施することも考えられる。同時に、変容を見取った生徒の周辺の生徒にも目を向けると、周囲との対話や協働の様子を知ることができる。

授業における生徒の何気ない発言や役割演技の様子等、生徒の考えの変容の記録を蓄積することは、記述のみ等の単一の方法で見取るワークシートと併用することで、より生徒の考えに近い姿を捉えることができる。そのためにも、年間を通して計画的に「座席表シート」を蓄積し、生徒の道徳性の成長の過程を更に把握することは重要である。

座席表シート

平成()年()月()日()曜日()年()組		T1授業者()	
教材名 ねらい			
①【 】		②【 】	
③【 】		④【 】	
名前 (1) (2) (3) (4)	名前 (1) (2) (3) (4)	名前 (1) (2) (3) (4)	名前 (1) (2) (3) (4)
名前 (1) (2) (3) (4)	名前 (1) (2) (3) (4)	名前 (1) (2) (3) (4)	名前 (1) (2) (3) (4)
名前 (1) (2) (3) (4)	名前 (1) (2) (3) (4)	名前 (1) (2) (3) (4)	名前 (1) (2) (3) (4)
名前 (1) (2) (3) (4)	名前 (1) (2) (3) (4)	名前 (1) (2) (3) (4)	名前 (1) (2) (3) (4)
名前 (1) (2) (3) (4)	名前 (1) (2) (3) (4)	名前 (1) (2) (3) (4)	名前 (1) (2) (3) (4)
名前 (1) (2) (3) (4)	名前 (1) (2) (3) (4)	名前 (1) (2) (3) (4)	名前 (1) (2) (3) (4)
名前 (1) (2) (3) (4)	名前 (1) (2) (3) (4)	名前 (1) (2) (3) (4)	名前 (1) (2) (3) (4)
名前 (1) (2) (3) (4)	名前 (1) (2) (3) (4)	名前 (1) (2) (3) (4)	名前 (1) (2) (3) (4)
名前 (1) (2) (3) (4)	名前 (1) (2) (3) (4)	名前 (1) (2) (3) (4)	名前 (1) (2) (3) (4)
名前 (1) (2) (3) (4)	名前 (1) (2) (3) (4)	名前 (1) (2) (3) (4)	名前 (1) (2) (3) (4)
名前 (1) (2) (3) (4)	名前 (1) (2) (3) (4)	名前 (1) (2) (3) (4)	名前 (1) (2) (3) (4)

見取る生徒の活動も必要なら記入する。(例)発言、話合い、動作(うなずき等)、記入、役割演技等①～④のいずれかに○をし、その活動の様子を枠内にメモする。

2 生徒の学習状況や変容を記録する「ワークシート」

書く活動は、生徒が自ら考えを深めたり整理したりする機会として重要な役割をもつ。ワークシートは、記入項目が固定された道徳ノートとは異なり、教材、展開等に応じて心情円盤やグラフ等を挿入したり、変容を見取るための工夫をしたりと意図的な作成ができる。そこで、今回は、学習記録の一つとしてワークシートを取り上げ、開発を行った。例えば、授業前に学習する価値項目に関連する内容のアンケートを行い、ワークシートに設けた欄に記入させておく。これにより、授業の終末において、生徒自身が授業前の自分の考えと現在の考えとを比較できるようにした。また、授業において、対話的な活動を取り入れ、自身の考えを広げ深めるきっかけとなった他者の発言を記録する欄を設けることで、生徒が何を基にどのような思考に至ったのかを、生徒自身だけでなく授業者も知ることができる。ワークシートの作成に当たっては、生徒の「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、質問の文章を書かないでといた終末までの展開が予想できない工夫や書く活動ばかりにならないような工夫が大切であ

ワークシート

「一冊のノート」		1年 組 号 氏名																				
Q. 寧ろに対して市たかあたり、心ない言葉をかけてしまったことはありますか。 「ある」 or 「ない」を選択して○をつけよう。 「ある」理由以下の①に発言者、②に起きたことについて具体的な理由を改めて書きましょう。 「ない」場合は下の③に起こらない理由を書きましょう。																						
ある or ない	①誰に対して=	②理由=																				
Q. 																						
☆	① [自分の考え]	② [友達の考え]メモ																				
③ [目での話し合いや、友達のを聞いて思ったこと]																						
⇨授業の振り返り⇨ <table border="1"> <tr> <td>できなかった</td> <td>あまりできなかった</td> <td>できた</td> <td>よくできた</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			できなかった	あまりできなかった	できた	よくできた																
できなかった	あまりできなかった	できた	よくできた																			
① 教材の内容には興味をもてましたか。 ② 自分の考えを述べることができましたか。 ③ 友達の考えを聞くことができましたか。 ④ 内容について深く考えることができましたか。 ⑤ 授業の前後で自分の考えにどのような変化がありましたか。																						

る。そして、授業者が生徒の思考の広がりや深まりを見取り、その見取ったよさを生徒自身に伝え、生徒が個々の自己肯定感を高めることにつなげられるワークシートにする必要がある。また、ワークシートを活用する意図について、評価のために記入するのではなく、生徒自身が変容を把握するとともに教員が生徒の変容を把握するためのものであることを生徒や保護者に事前に伝え、理解を図るようにする。

3 生徒の学習の成果を蓄積する「振り返りシート」

道徳の授業で生徒が考えを広げ深めたとしても、日常の中でそのことを思い起こす機会は少ない。教材名や授業概要を学級に掲示することもあるが、生徒が授業を振り返る手だてとはなりにくい。また、担任以外の教員が道徳の授業を行う場合、一人一人の生徒がどのような考えに至ったのか、担任を含む連携する授業者全員が知る方法を確保する必要がある。そこで、どの学校・学級でも活用できる方法として、毎時間生徒が学び取ったことを一枚のシートに記録し、学期を通して生徒や授業者が見返すことができる振り返りシートを活用する。

振り返りシートは、学期の初回の道徳の授業で配布し、毎時間の最後に本時を通して考えたことを記入させ、回収する。振り返りは、ワークシートの最後に記述欄を設けることが多いが、それをワークシートではなく振り返りシートにまとめさせることにより、生徒や教員が毎時間見返すことができる。いつでも確認できることは、生徒自身が道徳性に係る成長を客観的に実感することにつながる。

さらに振り返りシートの裏表紙には、学期の道徳の授業を振り返るための記入欄を設けた。第一項目は、「特に印象に残っている授業」である。時間が経過しても生徒に強い印象を残しているということは、心に深く響いた可能性が高いと考えられる。第二項目は、「今学期の道徳の時間を振り返って」である。道徳の授業が、学びに基づく実践、自己や生き方についての考えにつながったかどうかを記述させる。この記述を基に、授業者が生徒の成長の様子やよさを見取り、直接口頭で伝えたり、学級通信、道徳通信、振り返りシートの下部の記述等で生徒に伝えたりすることで、意欲の向上や勇気付けを行うことができる。

振り返りシート

<table border="1"> <tr><td>第1回</td><td>月</td><td>日【教材名】</td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </table>	第1回	月	日【教材名】										<table border="1"> <tr><td>組</td><td>番</td><td>氏名</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>月</td><td>日【教材名】</td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </table>	組	番	氏名	第6回	月	日【教材名】									
第1回	月	日【教材名】																										
組	番	氏名																										
第6回	月	日【教材名】																										
<table border="1"> <tr><td>第2回</td><td>月</td><td>日【教材名】</td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </table>	第2回	月	日【教材名】										<table border="1"> <tr><td>第7回</td><td>月</td><td>日【教材名】</td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </table>	第7回	月	日【教材名】												
第2回	月	日【教材名】																										
第7回	月	日【教材名】																										
<table border="1"> <tr><td>第3回</td><td>月</td><td>日【教材名】</td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </table>	第3回	月	日【教材名】										<table border="1"> <tr><td>第8回</td><td>月</td><td>日【教材名】</td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </table>	第8回	月	日【教材名】												
第3回	月	日【教材名】																										
第8回	月	日【教材名】																										
<table border="1"> <tr><td>第4回</td><td>月</td><td>日【教材名】</td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </table>	第4回	月	日【教材名】										<table border="1"> <tr><td>第9回</td><td>月</td><td>日【教材名】</td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </table>	第9回	月	日【教材名】												
第4回	月	日【教材名】																										
第9回	月	日【教材名】																										
<table border="1"> <tr><td>第5回</td><td>月</td><td>日【教材名】</td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </table>	第5回	月	日【教材名】										<table border="1"> <tr><td>第10回</td><td>月</td><td>日【教材名】</td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </table>	第10回	月	日【教材名】												
第5回	月	日【教材名】																										
第10回	月	日【教材名】																										

Ⅲ 研究仮説

<仮説>

三種の学習記録を用いて学習状況を計画的に見取ること、生徒の道德性に係る成長の様子が把握できるだろう。

本研究では、生徒の学習状況や道德性に係る成長の様子をどのように見取るかを考えた。教員は、生徒の道德性の評価において、生徒自らが成長を実感し、新たな課題や目標を見付けられるよう道德的な成長を見守り、よりよく生きようとする努力を認め、勇気付ける働きを重視する必要がある。また、道德性は人格の全体に関わるものであるため、道德の時間においては、それぞれの時間のねらいとの関わりにおいて生徒の変容を様々な方法で捉え、適切に評価し、指導の改善に生かすことが求められる。そこで、授業において複数の道德的な価値が生じて、意見が対立する場面では、取り得る行為を広い視野から、多面的・多角的に考えようとしていることを、計画的に生徒たちの発言の様子や感想コメントの記述から見取るために、以下の三種の学習記録を作成した。

- 座席表シート
- ワークシート
- 振り返りシート

座席表シートは、授業者自身が記録するシートである。中心発問や中心作業のときの生徒の学習状況を記録する。このシートは教員が保管する。生徒の実態把握や変容が分かるような工夫をした。

ワークシートは、生徒が何をどのように考え、思ったかが分かる。「ねらい」や「生徒の実態」に応じて友達のよい意見や参考になったり刺激を受けたりした意見を記入する欄を設ける。それにより生徒が自分では気付かなかった自分のよさに気付くことができるとともに、教員が道德的価値に沿った生徒のよさや様子の把握することにつながる考えた。

振り返りシートは、学期ごとに毎回の授業の振り返りを見開きの一枚のシートにまとめるようにした。生徒に書かせたいコメントは教材によっては違いが出てくるため、罫線のみにした。印象に残った道德の時間を取り上げてコメントを書かせることは、生徒自身が記録した内容を思い出すことができるとともに、授業者が生徒の変容を把握できる工夫になると考えた。

Ⅳ 実践研究

仮説の下に、計3回の検証授業を行う。指導においては、三種の記録（座席表シート、ワークシート、振り返りシート）を活用し、学習状況を計画的に見取るとともに、生徒の道德性に係る成長を把握する。

(1) 第2学年

- 主題 これからの日本を創る日本人の一人としての生き方を考える。
(内容項目C(17)我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度)

- 教材名 「ワンス・アポン・ア・タイム・イン・ジャパン」
「中学校版東京都道德教育教材集」(東京都教育委員会 平成28年3月)

「正直の国 日本」

「子供たちの規範意識を育むために」(東京都教育委員会 平成 27 年 7 月)

☆三種の学習記録を用いた見取りの工夫

TTを活用して生徒の変容を記録する。<座席表シートの検証>

(2) 第1学年

○主題 家族への敬愛(内容項目C(14)家族愛、家庭生活の充実)

○教材名 「一冊のノート」「私たちの道徳」(文部科学省)

☆三種の学習記録を用いた見取りの工夫

話し合い活動を中心に生徒の変容を記録する。<ワークシートの検証>

(3) 第1学年

○主題 真の友情(内容項目B(10)友情、信頼)

○教材名 「友情について考える」

「中学校版東京都道徳教育教材集」(東京都教育委員会 平成 28 年 3 月)

☆三種の学習記録を用いた見取りの工夫

振り返りシートを中心に生徒の変容を記録する。<振り返りシートの検証>

V 研究の内容

1 研究構想図

中学校学習指導要領(平成 29 年告示)
「第3章 特別の教科 道徳」の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の4
生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努
める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。

評価の基本的態度
道徳性を養うことを学習活動として行う道徳科の指導では、その学習状況を適切に
把握し評価することが求められる。

研究主題：**道徳科における評価の工夫**
～三種の学習記録を用いた学習状況の見取り方を通して～

研究仮説：三種の学習記録を用いて学習状況を計画的に見取ることで、生徒の道徳性に係
る成長の様子が把握できるだろう。

三種の学習記録

座席表シート

ワークシート

振り返りシート

2 検証授業

<指導例1：第2学年> 主にTTによる座席表シートの活用例

- 1 主題名 これからの日本を創る日本人の一人としての生き方を考える。
(内容項目C(17)我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度)
- 2 教材名 「ワンス・アポン・ア・タイム・イン・ジャパン」
(出典「中学校版東京都道德教育教材集」平成28年3月東京都教育委員会)
「正直の国 日本」
(出典「子供たちの規範意識を育むために」平成27年7月東京都教育委員会)
- 3 本時のねらい

我が国で受け継がれてきた日本人の特質(人格や行為など)を含む伝統を引き継ぎ、国家及び社会の形成者の一人として「日本」をよりよいものにしていこうとする自覚と道徳的実践意欲を育む。

4 指導観

(1) ねらいとする道徳的価値について

本主題は、中学校学習指導要領(平成29年3月告示)

特別の教科 道徳 第2内容

C 主として集団や社会との関わりに関すること

[我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度]

優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献するとともに、日本人としての自覚をもって国を愛し、国家及び社会の形成者として、その発展に努めること。

を受けて設定した。

我が国には先人の残した有形無形の優れた伝統や文化が多くある。「我が国の伝統の継承と文化の尊重」とは、我が国で長い歴史を通じて培われ、受け継がれてきたそれらを価値あるものとして知り、大切にしていこうという考えをもち、更に次代に引き継いでいこうとすることである。また「国を愛する態度」とは、日本という場所で共に歴史を形作ってきた仲間である日本人や日本文化、風土等の全てを含む「日本」を愛する態度、そしてその一員だと自覚し、「日本」をよりよいものにしていこうとする態度だと考える。

学級や中学校など生活の場における集団の一員としての帰属意識を基に、日本人としての帰属意識を中学生に育むことが大切である。同時に、有形の日本文化に目を向けることはあっても、それらを生み出した精神や生活の中の行動に表れる日本人の特質を伝統として捉え、引き継ごうという意志をもたせることも大切である。したがって、本時では140年前の日本人と現代の日本人が世界からどのように評価されているのかの「事実」を通して、日本人としての意識を高めたい。また、140年の間の変化についても取り上げることで、今後の日本を担う日本人としてどのように生き、未来の日本を形作っていくのかを考えさせたい。

(2) 生徒の実態について

本教材の中のモースは、日本人の「正直さ」や「助け合う」ことについて感動している。本学級の生徒も正直な生徒が比較的多い。例えば、誰かが教室でいたずらをしていても該当生

徒が名乗り出る、トラブルが起きたときはその経緯や状況を教員に伝えるなどの実態がある。また、道徳の授業においても包み隠さず自身の考えを発言する。本授業において、本教材に掲載されているような、他人のものを勝手に自分のものにしないと行った行動をとれるかについて生徒に問い掛けたい。

「助け合う」ことについても、学級内外で係活動や当番活動等で助け合っている光景をよく目にする。しかし、本教材の中の場面のように、「見知らぬ人」であっても助け合うかということ、なかなか困難なことである。例えば、乗り物で席を譲ることも助け合いの一つだが、気恥ずかしさにより実行できない生徒もいると考えられる。

中学校では、小学校と比較して日本や世界について学ぶ内容が増えたことや、日本の伝統や文化に対して理解を深め、より関心が高まってきたことで、生徒が「日本人としての自覚」をもつようになってきた。しかし、国語科の百人一首や音楽科の能楽や鼓の授業等を通して体験した日本の有形文化の形成に寄与した人々の「精神」まで深く考えることは難しい。本授業を、日本や日本人について考えたり、日本人としての生き方について考えたりするきっかけにしたい。

(3) 教材について

ア 教材の概要

本授業では、「中学校版東京都道徳教育教材集」（東京都教育委員会）から、「日本の事実」が書かれた二点の教材を用いる。

第一の教材には、モースの目に映った 140 年前の日本の人々の姿が書かれている。モースは、日本で多くのことに驚いた。開けっ放しの家、大八車を見知らぬ人たちが協力して押す姿、クリーニングに出した洋服のポケットに入っていた小銭や切符が戻ってくることで等である。しかし、これらは日本人にとって「当たり前」の気遣いだった。ある日モースは旅館の主人に 160 万円相当のお金と金の懐中時計を預けたいと願い出た。すると旅館の人はモースにお金と時計をお盆の上に置かせ、誰でも入れることができる部屋に置いたままにした。このことにモースは不安を感じたが、一週間後、旅館に戻ると出掛けた時と寸分たがわず置かれたままになっていた。

第二の教材は、現代の日本の落とし物に関する報告と、その事実に対する世界の人々の思いが書かれたコラムである。日本では、2014 年に現金 33 億 4000 万円が落とし物として届けられ、24 億 7000 万円が持ち主に戻った。また、届け主が落とし物をもらう権利を放棄し、3 億 9000 万円が日本の財源になっている。日本人の正直さを実感させる例が落とし物以外にも多くあり、海外では感嘆の声がある。

イ 教材活用の視点

本教材に書かれていることは全て事実である。生徒に「正直」で「助け合う」日本人の素晴らしさを伝えるに当たり、フィクションより本教材の方が心に響くと考え選択した。モースは日本人とのふれあいの中で何度も驚いている。驚きの原因となる日本人の行動を予想しながら教材を読み進めることで、他の国の人が驚くようなことを日本人は「当たり前」の気遣いとして実践している事実について一点目の教材を用いて気付かせたい。また、それが失われたかのように感じられる現代においても、継承している日本人がいるということ

を、第二の教材を用いて実感させたい。

5 本時の学習

(1) 本時の展開

	主な学習活動と主な発問	生徒の反応	◇指導上の留意点 ◆評価の観点
導入	1 現金を拾ったらどのようにするか考える。 ○1円が落ちていたら届けますか。(以降100円と10000円を聞く。)	<ul style="list-style-type: none"> 小銭なら、少しの金額なら届けない。もらってもいい。 10000円なら、欲しいから届けない。 届ける。 (善意/自分のものになることを願って) 	◇生徒の本音を引き出すよう意識し、展開で使えるような生徒の考えは板書する。 ◆現金が落ちていた場合、自分がどのように行動するか発表することができたか。(挙手・発言)
展開	2 教材1を読んで、話し合う。 ○モースやビゲローは日本人のどのような点に感動したのでしょうか。(発表) (「当たり前」の発言が出た場合、具体化する。) ○モースが魅力を感じた日本人と、今の日本人を比べて、皆さんはどう思いますか。「変わっていない日本人」と「変わってしまった日本人」の二つに分けて書きましょう。見聞きした場面やニュース、自分がした体験等を思い返しながら書けるといいですね。 (記述の後、四人組での話し合い5分⇒全体発表)	<ul style="list-style-type: none"> 互いに信じる。 (頑丈な扉や仕切りがないー信頼を示す。) 助け合い、感謝する。 当たり前の気遣いができるところ。 (切符や小銭でも相手の気持ちを考えて行動する。相手意識をもっている。) 正直。人のものを盗らない。 【変わってしまった日本人】 万引き等の盗みがある。 相手のことを考えない行動を電車の中でしている。 【変わっていない日本人】 荷物をたくさん持っている人がいたら、一緒に運ぶのを手伝っていた。 席を譲っていた。 	◇「頑丈な扉や仕切りがない」ーお互いの良心の信頼、「すぐさま大八車を押すのを手伝う」ー困っている人を一刻も早く助ける、「切符や小銭でも返す」ー自分で判断するのではなく相手の気持ちを考え合い困らないようにという相手意識がある、そのような日本人の特性にまで深めたい。 ◇確かにあった日本のよさが失われている事実がある。一方で受け継がれている点もあるということを確認する。 ◇導入でお金をもらおうと考えた生徒が自分の行動について考えられるとなおよい。 ◆モースが愛した日本人と現代の日本人とを比べて考え発表することができたか。(ワークシート・発言・動作)
終末	3 教材2を読んで、学習を振り返る。 ◎今後も多くの外国人がモースのように日本にやってきます。これからの日本を創っていくみなさんは、どのような国だと言われたいですか。そして、日本人の一人としてどうしたいですか。振り返りシートに書きましょう。	<ul style="list-style-type: none"> 日本人の正直さは今の日本にも受け継がれている。だからこれからは自分たちが次の世代へと受け継いでいきたい。 昔の日本のように安全で思いやりのある日本が続くようにしたい。困った人がいたらどんなことでもすぐやるように心掛けたい。 	◇現代の日本の事実を紹介し、学習を振り返らせることで、道徳的実践意欲と態度を育む。 ◇振り返りシートに感想を記入させ、匿名で数名の感想を読みあげる。 ◆学習を振り返り、これからの生き方をより良いものにしていこうとする姿勢が見られたか。(振り返りシート)

※座席表シートは総括的に使う。

(2) 本時の評価

ア 学習状況の評価

我が国で受け継がれてきた日本人の特質（人格や行為など）を含む伝統について考え方を広げ深めることができたか。

イ 道徳性に関わる成長の様子

我が国で受け継がれてきた日本人の特質（人格や行為など）を含む伝統を引き継ぎ、「日本」をよりよいものにしていこうとする気持ちをもつことができたか。

(3) 板書

	届ける	届けない	140年前
1円	○人	○人	・お互いを信じ合っている。
100円	○人	○人	・困っている人をすぐに助け感謝し合う。
10000円	○人	○人	・当たり前の気遣い =相手の気持ちを考えて行動する。
他の人が困る	ほしい!		変わっていない日本人 変わった日本人
ルールを守る	取りに来ない		・思いやる温かい心 (盗み・犯罪)
罪悪感	めんどくさい		・正直さが減った
	関わりたくない		・困ったときの助け合い・信じられない (震災・係や当番) (恐怖・セキュリティ)
これからの日本を創っていくみなさんは、どのような国だと言われたいですか。			
そして、日本人の一人としてどうしたいですか。			

6 指導の実際

本時は特に「T Tによる座席表シートの活用」に重点を置き検証を行った。

授業者が座席表シートに記入するのは、主に「話し合い活動」の時間である。また、1単位時間に学級の全生徒を見取ることは難しい。学級全体への発問や生徒の考えを基にした切り返す発問、板書等をしつつ多くの生徒を見取りながら座席表シートに記入することは困難であるからである。そこで、座席表シートを活用して授業者が一人で1単位時間に見取れる生徒の数には限りがあるが、副担任や学年の教員等がT 2をすれば1単位時間内にどのくらいの生徒の見取りができるのか検証したいと考え、その観点から今回の検証授業を行った。

(1) T 2が座席表シートに見取りを記入したことによる成果

授業の始まりから終わりまで詳細な見取りが可能となった。実際学級の生徒全 25 名中 21 名の 26 の活動（発言、うなずきを含む動作、話し合い、ワークシートの記述等の活動の観点）が記録できた。

記録例

- ・もし自分がお金を落としたら届けてほしいから届けようかな。(全体への発言には至らないつぶやき)
 - ・140年前は互いに信頼していて心配がなく、そのお陰で生き生きしていたのではないか。(発言)
 - ・「犯罪とか暴力があるって日本人の何が変わったんだろう。」と話し合いで問い掛けている。(話し合い活動)
 - ・「結構日本は変わっちゃったかも。」と言いながらうなずいている。(話し合い活動・動作)
- また、座席表シートに記入した導入時や展開時の発言と、ワークシートや振り返りシー

トに生徒が記入したものを比較することで、考えの広がりや深まりという生徒の変容が見取ることができた。

座席表シートとワークシート・振り返りシートとの比較から見取れる生徒の変容

生徒	座席表シートに書かれた導入や展開前半部分の生徒の発言	ワークシートや振り返りシートに書かれた生徒の記述
A	(落ちているお金を届けるかという問いに対して) お金を落とす奴が悪いからもらう。	「日本はいい国だ」と思われるように感謝や礼儀など当たり前のことをおろそかにしない。落とし物は届けて持ち主に返るようにしたい。
B	落ちている金額が高ければ高いほどほしい。	日本人は人のことを考えて行動できる国民だと思われたい。一人一人が相手のことを考えることが大切だ。
C	(お金を落とした人より) 自分が第一だ。だから拾ったお金は使いたい。	助け合いや人を想う気持ちが残されてきたのだからそれを大切にして伝えていきたい。
D	面倒なことには関わりたくないから困っている人がいても無視する。	日本で行われるオリンピックに向けても安全で安心な国と言われたい。そして日本人として恥じない生き方をしたい。
E	140年前の日本人は当たり前の気遣いできていた。相手が嫌がることはせず、大八車を押すなど助け合っていた。	140年前の日本について考え、「当たり前の気遣い」という精神を、今生きている日本人として当たり前に行えるようになりたいと思った。

考えの変化が見られる例

考えの深まりが見られる例

さらに、日常的に生徒と関わりのある教員が見取りを行った場合は、道徳の時間以外での取組や授業との違いを踏まえて見取ることができた。座席表シートに以下のようなT2による記述があった。

記録例

- ・ふだんは全く書かない振り返りシートを本時で三行以上書いている。
- ・明治という時代背景を踏まえて「以前は戦争があったが今はない。平和を望むようになったのか。」とつぶやく。

(2) TTによる見取りと座席表シートの記入を実施する上で特に気を付けるべきこと

学習指導要領には、他者の意見によって考えを深めているか、物事を広い視野から多面的・多角的に考えているか、中心発問では自己を見つめ人間としての生き方についての考えを深めているかという点を評価すると記載されている。授業者同様、T2も、本時のねらいや展開、活動内容を十分理解して見取りを行わないと、T2はこれらの点よりも生徒の目立つ言動や不適切な言動に目が向き記録してしまう傾向があることが分かった。そこで、授業者は、T2もこれらを見取れるような発問や活動を授業に取り入れるとともに、座席表シートの内容の確認等を事前に打ち合わせることで「動作」、「話し合い活動」など、着目してほしい活動を伝える必要がある。

ローテーションで授業を行い、TTによる授業を行う学校もあるが、TTによる授業の時間確保は難しい。また、TTによる授業を行う場合、副担任が必ずしもT2になるとは限らない。そこで、授業内容や時期等についてよく検討し、効果的な見取りを行い、評価につなげていく必要がある。

7 座席表シート

【授業者が記入した座席表シート】

※B4からA3サイズが記入しやすい。

平成(30)年(10)月(11)日(木)曜日(2)年(B)組 T1記入者()

教材名	「ワンス・アポン・ア・タイム・イン・ジャパン」 / 「正直の国 日本」			
ねらい	これからの日本を創る日本人の一人としての生き方を考える			
①【発言(発声・話し合い)】	②【うなずき等動作】	③【振り返り/ワークシート】	④【つぶやき】	
名前	名前	名前	名前	横溝さん
① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④
森さん ① ② ③ ④	宮沢さん ① ② ③ ④	三島さん ① ② ③ ④	二葉亭さん ① ② ③ ④	樋口さん ① ② ③ ④
<ul style="list-style-type: none"> ・眠そう ・関心がない ・ぼーっとしている <p>等の記入は記録にはなるが、「勇気付ける」評価の材料にはならない。</p>		<p>授業者による記入は、一時間に4、5人程度、主に話し合い活動等、生徒が活動し机間指導している際が中心となりやすい。</p>		
		坪内さん ① ② ③ ④	谷崎さん ① ② ③ ④	本郷さん ① ② ③ ④
幸田さん ① ② ③ ④	国木田さん ① ② ③ ④	菊池さん ① ② ③ ④	川端さん ① ② ③ ④	尾崎さん ① ② ③ ④
		心配せず安心できる日本 =いきいきしていた	被災地のボランティア 助け合いの精神	
江戸川さん ① ② ③ ④	井伏さん ① ② ③ ④	有島さん ① ② ③ ④	阿部さん ① ② ③ ④	芥川さん ① ② ③ ④
				「日本はいい国だ」と思われる ように感謝や礼儀を……

見取る生徒の活動も必要なら記入する。例)発言、話し合い、動作(うなずき等)、記入、役割演技等①~④のいずれかに○をし、その活動の様子を枠内にメモする。

【T2が記入した座席表シート】

※後ろから見て記入するため座席配置は逆向きに印刷した。

授業の導入段階の見取りを記入すると、振り返りシートの内容と比較して変容をつかみやすい。

「活動の観点」や「見取りの視点」は事前に打ち合わせ、共通理解しておくことで効果的に見取ることができる。

平成(30)年(10)月(11)日(木)曜日(2)年(B)組 T2記入者()

教材名	「ワンス・アポン・ア・タイム・イン・ジャパン」 / 「正直の国 日本」			
ねらい	これからの日本を創る日本人の一人としての生き方を考える			
①【発言(発声・話し合い)】	②【うなずき等動作】	③【振り返り/ワークシート】	④【つぶやき】	
名前	名前	名前	名前	江川さん
① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④
芥川さん ① ② ③ ④	阿部さん ① ② ③ ④	有島さん ① ② ③ ④	井伏さん ① ② ③ ④	江川さん ① ② ③ ④
1000円を 落とす奴が悪い	エレベーターでちびと 気遣いがある	席のゆすりあい		高ければ高いほどいい 板書をぶつけて振り返り記入
尾崎さん ① ② ③ ④	川端さん ① ② ③ ④	菊池さん ① ② ③ ④	国木田さん ① ② ③ ④	幸田さん ① ② ③ ④
当たり前 =相手の気持ちを考え 嫌がることをしない	被災地 助け合いの精神	安心して日本は イキイキ	昔の日本、しりがない =信頼し合っているから	10000円、絶対に 使いたい
小林さん ① ② ③ ④	坂口さん ① ② ③ ④	志賀さん ① ② ③ ④	司馬さん ① ② ③ ④	島崎さん ① ② ③ ④
親切だが 人を傷つける言動も			さすがに1000円は…… 900円なら? いや届けよう	使わないけど…… 財布内に保存しておく
太宰さん ① ② ③ ④	谷崎さん ① ② ③ ④	坪内さん ① ② ③ ④	水井さん ① ② ③ ④	夏目さん ① ② ③ ④
	日本人の感謝の心は 残っているが犯罪は増えた	助け合いは残っているが ボウ捨てでバブル違反も	自分が落とすらと思うと カサを傾ける江戸く等残る	自分が第一
樋口さん ① ② ③ ④	二葉亭さん ① ② ③ ④	三島さん ① ② ③ ④	宮沢さん ① ② ③ ④	森さん ① ② ③ ④
助け合う日本は変わら 振り返り いっけい 今日は三行	自分達もお金を返さない 言ふ、そういう人が多かた		面倒なことには関わら ない、困っているも無視	100円は少額だからいい 昔は金よりずと正直だ
横溝さん ① ② ③ ④	名前	名前	名前	名前
拾ったお金は遊びに使う 以前は戦争今はない平和を (お金の便覧、明治時代を見る)				

見取る生徒の活動も必要なら記入する。例)発言、話し合い、動作(うなずき等)、記入、役割演技等①~④のいずれかに○をし、その活動の様子を枠内にメモする。

※人名は架空のものです。

<指導例 2：第 1 学年> 主にワークシートの活用例

- 1 主題名 家族への敬愛（内容項目 C (14) 家族愛、家庭生活の充実）
- 2 教材名 「一冊のノート」（出典 道徳教育用教材「私たちの道徳」中学校版 文部科学省）
- 3 本時のねらい

家族の生き方や自分に対する思いなどに気付くことで家族の大切さを自覚し、敬愛の念を深め、家族の一員として充実した家庭生活を築こうとする道徳的実践意欲を高める。

4 指導観

(1) ねらいとする道徳的価値について

本主題は、中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示）

特別の教科 道徳 第 2 内容

C 主として集団や社会との関わりに関すること

[家族愛、家庭生活の充実]

父母、祖父母を敬愛し、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築くこと。
を受けて設定した。

中学生の時期は、自我意識が強くなり、自分の判断や意志で生きていこうとする自立への意欲が高まってくる。自分を支えてくれる父母や祖父母等、家族の言動やしつけに反抗的になりがちで、素直になれない時期でもある。少しの忠告や叱責があたかも自分の全てを否定するかのよう思えて、時として父母の意向に反した行動や、祖父母の意向を無視した行動となって表れることもある。

また、時代と共に家族の態様は変化している。かつてのような大家族の人間関係の中で喜怒哀楽を共にし、生活の苦労を分かち合いながら人間関係の機微を学び、家族の連帯を自覚する機会が激減している。このような環境の中で、生徒はこれからも今ある家族と共に人生を歩むことになる。そして、近い将来に自らも新たな家庭を築く存在である。だからこそ、この時期に家族というものを改めて考え、見えにくくなっている家族の深い愛情に気付き、感慨をもって自己を振り返らせたい。そして、家族への敬愛を深め、家族の一員として互いに支え合い、家族と共に充実した家庭生活を築くことの大切さを感じさせたい。

(2) 生徒の実態について

本学級の生徒に行った事前アンケートの結果から、家族との関わりについては、「勉強しろと口うるさい。」「学校での様子をしつこく聞いてくる。」「ストレスをぶつけ八つ当たりしてくる。」「寝ていたら急に起こされてイライラした。」等の否定的な印象があることが分かった。また、祖父母については、「話が合わない。」「普段から顔は合わすものの、「興味がない。」「相手にしていない。」等の回答があり、関係性が薄いことがうかがえた。一方、家族に対する肯定的な意見としては、「常に優しい。」「けんかにならない。」が多かった。この現状には、核家族化や、学業等への忙しさから自分自身のことには精一杯で周囲に目を向ける余裕がない生徒が多くいることが背景にあると推察される。

こうした状況から、成長と共に家族との物理的・心理的な距離が生じ、関わり合いが消極的になっている。また、ものの見方や考え方が自己中心的なものになってきていること

が考えられる。

本授業では、家族一人一人に目を向け、深い愛情を受けて育ってきたことを改めて感じ取らせるとともに、家族はかけがえのない存在であることを実感させたい。そして、家族それぞれの状況を理解し、積極的に寄り添っていこうとする意識や、支えられて生きてきた今までとは異なり、今後は自分自身が家族を支える力になろうとする道徳的実践意欲を高めたい。

(3) 教材について

ア 教材の概要

主人公は、物忘れが激しくなった祖母に対して、強い不満を抱くようになる。そんなある日、祖母が書いた一冊のノートを見付ける。そこには、記憶がどうにもならない祖母のもどかしさや不安、家族に対する感謝の気持ちなどとともに、愛する孫たちの面倒を見なければならぬという責任感や満足に仕事ができない自分への叱咤の言葉が^{しつた}つづられていた。それを目にした主人公は、いたたまれない気持ちになるとともに、祖母の深い愛情に気づき、深い情愛（思い・敬愛）と共に祖母に寄り添う。

イ 教材活用の視点

本教材には、主人公である「ぼく」と同居している物忘れの多くなった祖母との間に生じたトラブルと、祖母の思いが描かれている。トラブルから祖母に不満を感じる「ぼく」だったが、ある日、一冊のノートを読んでいたたまれなくなった「ぼく」。「ぼく」の思いを深く考えて話し合うことを通して、家族を大切に思う気持ちに共感し、家族の一員としての自覚を深め、家族のかけがえのなさを再認識させることができる教材である。家族との関わりを振り返らせながら、家族が相互に深い^{きずな}絆で結ばれていることを自覚させる。家族に感謝することが家庭生活をより充実させることを生徒一人一人に深く考えさせ、ねらいに迫る。

5 本時の学習

(1) 本時の展開

	主な学習活動と主な発問	生徒の反応	◇指導上の留意点 ◆評価の観点
導入	1 家族との関わりに関するアンケート結果を共有し、問題意識をもつ。	・これまでの家族との関わりについて振り返る。	◇事前に行ったアンケートの結果をプレゼンテーションソフトを活用して紹介し、ねらいとする価値へ迫る導入を図る。
展開	2 教材を通して話し合う。 ○外でおばあちゃんを見かけたとき、知らん顔をして通り過ぎたのはなぜだろうか。	・恥ずかしいから。 ・変な格好で外を出歩かないでほしいから。 ・自分の祖母だと気付かれたくないから。	◇教材の概要を確認する。 ◇奇妙な姿で歩く祖母を他人に見られて恥ずかしいと思う率直な気持ちに共感させる。 ◇祖母に買い物を協力してもらっておきながらも、自分の不満だけを主張する自己中心的で自分本位の言動であることに気付かせる。

展開	<p>○父親の話聞いたとき、何も言えなくなったのはなぜだろうか。</p> <p>○黙って祖母と並んで草取りをする挿絵を示す。この僕の行為には、僕のどんな思いが込められているのだろうか。</p> <p>◎あなたは今後家族とどのように関わっていくか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・病状が悪くなっていたことを知ったから。 ・今まで少し言い過ぎたし、祖母に頼っていたことに気付いたから。 ・父の言うことは分かるが、度重なる失敗や物忘れがあるのは困る。 ・祖母が一番苦しんでいた。 ・今までひどいことを言ってごめんなさい。 ・自分のことは自分でやるようにしましょう。 ・今度は自分が祖母を支える番だ。祖母を助けていこう。 <ul style="list-style-type: none"> ・家族を大事にする気持ちを表す意味で、言葉遣いを改める。 ・家族の一員として、家の手伝いをすすんで行う。 ・家族を大切にしていこう。 ・お互いに支え合っていく。 ・助け合っていく。 	<p>◇祖母の状況を理解しようとはするものの、それを受け入れて、行動に移そうと思うまでには至れない主人公の葛藤に共感させる。</p> <p>◇ワークシートに考えを記入させる。</p> <p>◆祖母への敬愛の念と、労りの思いが芽生え始めた主人公の気持ちに共感できているか。 (発言・ワークシート)</p> <p>◇家族は互いに支え合うことが大切であると気付かせる。</p> <p>◇事前アンケートで確認したことを再度振り返る。</p> <p>◇4人グループで自分の考えを話させ、グループごとに紹介したい意見を発表させる。</p> <p>◇教材から離れ、これまでの自分自身を振り返る。家族の存在について多様な考えに触れ、家族との関わりについて考える。</p> <p>◆授業前と授業後で「家族」に対する考えの変容があるか。 (発表・ワークシート)</p>
終末	<p>3 本時に学んだことを振り返り、最後に教員の家族の写真と説話を通して、ねらいに迫る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家族をいたわるようにしていきたい。 ・今までの家族とのトラブルややりとりを反省し謝りたい。 ・家族の手伝いをしたり、話し相手になったりできるようにしていきたい。 	<p>◇振り返りシートに学んだことを振り返らせる。その際、自分事として本時を捉えさせ、ねらいに迫る。</p> <p>◆授業を振り返り、考えたことや思ったことを記述できているか。 (振り返りシート)</p>

※座席表シートは総括的に使う。

(2) 本時の評価

ア 学習状況の評価

多面的・多角的に考えながら話し合い、自己の考えを広げたり深めたりすることができたか。

イ 道徳性に関わる成長の様子

家族との関わりについて自分の事として考え、自分なりの価値観を見直したり高めたりすることができたか。

外で知らん顔をしたとき

- ・ 恥ずかしい。
- ・ 変な格好で歩かないで。
- ・ 外に出ないでほしい。

父の話を聞いたとき

- ・ 病状が悪いなんて
- ・ 祖母を頼るわりには
- ・ ひどいことを言って
- ・ しまっていた。
- ・ 自分勝手すぎる。
- ・ 病状はわかるが、
- ・ 失敗続きや、
- ・ 物忘れは困る。

祖母と並んで草取りをしているとき

- ・ 祖母が一番苦しんでいた。
- ・ ひどいことを言っていた。ごめんなさい。
- ・ これからは自分のことは自分でやろう。
- ・ 今度はぼくが祖母を支えよう。

家族とどのように関わるか

(3) 板書

6 指導の実際

本時は特に「ワークシートを用いた活動の実践」に重点を置き検証を行った。

ワークシート最初の発問（Q）では、授業前の家族に対しての考えを記述させたことで、前述のとおり、生徒の実態を詳細に把握することができた。

ワークシートの◎の中心発問では、話し合いを通して多様な考えに触れ、自分の考えと比較検討することで家族との関わり方を再考させ、家族の存在、家族との関わり方の変容を見取る手掛かりとなった。

7 ワークシート

【生徒Aのワークシート（一部項目の抜粋）】

Q. 家族に対して冷たくあつたり、心ない言葉をかけてしまったことはありませんか。

「ある」or「ない」を選択して○をつけましょう。

「ある」場合は下の①に対象者を、②に起きたことについて具体的に理由を記述して書きましょう。

「ない」場合は下の②に起こらない理由を書きましょう。

<input checked="" type="radio"/> ある or <input type="radio"/> ない	①誰に対して⇒ お母さん ②理由⇒ 自分が不機嫌なときは、母が色々話しかけてきたから、母は冷たくあつてしまった。
---	---

☆. あなたは今後家族とどのように関わっていくか。

① [自分の考え] 家族に冷たくあつてしまわないように、みんな自分なりの考えがあると思うから、それを理解してあげたいと思う。	② [友達の考え]メモ <table border="1"> <tr> <td>〇〇さん</td> <td>相手を理解し、尊重する。</td> </tr> <tr> <td>△△さん</td> <td>よく知って関わる。</td> </tr> </table>	〇〇さん	相手を理解し、尊重する。	△△さん	よく知って関わる。
〇〇さん	相手を理解し、尊重する。				
△△さん	よく知って関わる。				
③ [班での話し合いや、友達のを聞いて思ったこと] ・ 相手の心を考えることが大切!! } "よく知って、 ・ 家族を尊重し合えることも大切!! } "尊重する"					

【生徒Bのワークシート（一部項目の抜粋）】

Q. 家族に対して冷たくあつたり、心ない言葉をかけてしまったことはありますか。
 「ある」or「ない」を選択して○をつけましょう。
 「ある」場合は下の①に対象者を、②に起きたことについて具体的に理由を含めて書きましょう。
 「ない」場合は下の②に起こらない理由を書きましょう。

ある or ない	①誰に対して⇒ お母さん ②理由⇒ ある事をいくら説明しても全然理解してくれなくて何回も聞いてきたので、いらだててしまったから。
----------	---

☆. あなたは今後家族とどのように関わっていくか。

①【自分の考え】 ・いつもと違う見方などで家族の良いところを見つける。 ・げんかを減らす。	②【友達の考え】メモ ・素直に言うことを聞く。 ・負担や迷惑を減らす。 ・迷惑をかき分けたい。
③【班での話し合いや、友達の考えを聞いて思ったこと】 親の言うことを聞き、負担や迷惑を減らす。 <班E> 家族のことを考えたつもりでも自分の中では大切にしたいと思いましたが、だから家族のことを考えて行動してよかったと思いました。	

【本時で使用したワークシート】

「一冊のノート」	1年 組 番 氏名
----------	-----------

Q. 家族に対して冷たくあつたり、心ない言葉をかけてしまったことはありますか。←

「ある」or「ない」を選択して○をつけましょう。
 「ある」場合は下の①に対象者を、②に起きたことについて具体的に理由を含めて書きましょう。
 「ない」場合は下の②に起こらない理由を書きましょう。

ある or ない	①誰に対して⇒ ②理由⇒
----------	-----------------

Q. 祖母と並んで草とりをする「ぼく」の心の中には、どんな思いがあったでしょうか。←

イラスト

☆. あなたは今後家族とどのように関わっていくか。←

①【自分の考え】	②【友達の考え】メモ
③【班での話し合いや、友達の考えを聞いて思ったこと】	

◆授業の振り返り◆

できなかった	あまりできなかった	できた	よくできた
--------	-----------	-----	-------

- ① 教材の内容には興味をもてましたか。
- ② 自分の考えを持つことができましたか。
- ③ 友達の考えを聞くことができましたか。
- ④ 内容について深く考えることができましたか。
- ⑤ 授業の前後で自分の考えになにか変化はありましたか。

授業前に家族に関する自分の考えを書く欄を設定した。授業前、授業中、授業後に自らを振り返ることができる。

生徒自身の考えを主人公の「ぼく」に投影させて思考させる際に、吹き出し形式にすることで、「ぼく」の心の中を考えさせることができる。

生徒が授業展開を予想できないように、ワークシート配布の際は、**発問は印刷せず、記入欄のみ設けておく。(3ページ参照)**

授業前に考えた「家族との関わり方」を再考させて、家族の存在、家族との関わり方の変容を見取る手掛かりとする。話し合いを通して多様な考えに触れ、自分の考えと比較検討できるようにする。

五つの項目について自己評価させ、生徒に、自己の取組状況や思考の変容を実感させる。授業自体の評価に活用し、授業改善を図るために活用できる。

生徒がワークシートに記載した内容から、生徒は、話し合い活動や全体での意見共有を通して他者の価値観に触れることで、自分の考えと比較し、検討していることが分かる。ここから、生徒が家族との関わりについて多角的に捉えられるようになったことでより考えを深めていて、授業前の考えとの変容が見られた。

さらに、生徒が振り返りシートに記載した内容から、本時の授業を通して生徒が自分の生き方について考え、家族に対する関わり方や、接し方を再考している様子を見て取ることができた。本時の学習を通して、自分と家族との関わりを振り返ることで考えが更に深まっている。教員は、道徳的実践意欲につながる記述等、生徒の変容をワークシート及び振り返りシートから見取ることができる。生徒は、自分の心の変容を振り返りシートへの記入を通して実感することができる。

<指導例3：第1学年> 主に振り返りシートの活用例

1 主題名 真の友情（内容項目B(10)友情、信頼）

2 教材名 「友情について考える」

（出典「中学校版東京都道徳教育教材集」平成28年3月東京都教育委員会）

3 本時のねらい

真の友情について考え、級友と話し合う過程を通して、友情を築こうとする道徳的心情を育む。

4 指導観

(1) ねらいとする道徳的価値について

本主題は、中学校学習指導要領（平成29年3月告示）

特別の教科 道徳 第2内容

B 主として人との関わりに関すること

[友情、信頼]

友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと。

を受けて設定した。

友情は、人間にとって人生を豊かにするかけがえのないものである。そして、真の友情は、相互の信頼があって成り立つものであり、その基盤として相手に対する理解や敬愛の念が必要となる。友達を「信頼」するとは、相手を疑う余地なく、いざという時に頼ることができることと信じて、全面的に依頼しようとする気持ちをもつこととあり、その友達の人間性に賭けることである。また、相手の人柄に親しみを感じ、敬愛する気持ちをもち続けることである。分かち合い、高め合い、心からの友情や友情の尊さについて理解を深め、自分を取り囲む友達との友情をより一層大切にする態度を育てることが大切である。人間の社会は、互いに協力することによって望ましい社会生活が営まれ豊かな文化が形成されるのである。そこに生じる友情は、人間として互いの特徴や個性を尊重し、互いに支え、競い合い、高め合うことによって、深まるのである。

思春期は、心から信頼できる友達を求め、友達への期待が強まる時期であるが、真の友達をつくり、友情を育むことを難しく感じている生徒は少なくないと考えられる。友達との関

係に、時には悩み、友達であるからこそ意見がぶつかることもある。青年前期にある中学生は、心身の成長は目覚しいが、不安定な時期でもある。感情の起伏が目立ち、ともするとささいなことから感情の行き違いが生じ、せつかくの友達関係が台無しになることもある。望ましい友達との関係についての考えを深め、これらの悩みや葛藤を乗り越えることで、互いの尊敬と信頼に基づいた真の友情を育もうとする心情を養いたい。

(2) 生徒の実態について

本校第1学年の生徒は、中学校生活に慣れ、規律を守って生活する中で、友達との交流を深めている。友情について考える場面において、意見を素直に出し合ったり、肯定的な意見を述べたりする生徒が多く見られた。例えば、生徒から挙げた友情についての考えは「心から大切にしたい人」、「けんかしても仲直りできる」、「何でも気軽に話せる」等であった。一方で、友達を大切にできない生徒や友情に関する考えが曖昧な生徒もいる。本授業において、人間関係における多様な場面を想定したり、他者を肯定的に捉えたりすることで、友情についての考えを更に深めさせたい。

(3) 教材について

ア 教材の概要

本教材は、本当の友達とはどういう存在なのかという疑問をアメリカ人Tが自身の日本人との友達関係を基に投げ掛けたものである。また、資料として「思春期の子ども世界4都市調査」の結果の一部が掲載されている。本調査の結果として、学校生活で一番大切なのは「友だちと会うこと」と半数以上の子供が回答している。また、自分の将来について相談できる相手として「友だち」と回答している子供の割合は、4か国の中で日本が一番低かった。

イ 教材活用の視点

本教材は、真の友情について考えを深められる内容である。外国人が疑問に感じた日本人の友情をきっかけとして、最終的に自分自身で「真の友情」に関する考えがもてるよう、発問を工夫する。

展開では、Tの視点を通して、ケンタとケンジ2名の行動の違いを整理する。その上で、ケンタが何もしないから、又は、ケンジが手伝ったからという見方だけで、「真の友情」を生徒が判断することがないように留意する。また、中心発問では、Tに、どのように友情を説明するかを問うことで「真の友情」について考えさせたい。

5 本時の学習

(1) 本時の展開

	主な学習活動と主な発問	生徒の反応	◇指導上の留意点 ◆評価の観点
導入	1 教員の海外での体験談を聞く。	・困っていると助けてくれる外国人の友達がいるんだ。	◇電子黒板を活用してスライドを提示する。
	2 教材を読んで、話し合う。 ○ケンタはなぜ手伝わなかったのだろうか。また、ケンジはなぜ手伝ったのだろうか。	【ケンタが手伝わなかった理由】 ・本当の友達ではなかったから。 ・メールが届かなかったから。	◇板書で登場人物とその行動について整理する。 ◇人にはそれぞれ背景や事情があることに気付かせ、次の発問につなげる。

展開	<p>○あなたがTさんの友達だったら手伝うか。</p> <p>○日本人の友情が分からないというTさんに「真の友情」をどのように説明するか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・忙しかったから。 【ケンジが手伝った理由】 ・優しくかったから。 ・時間があったから。 ・Tさんを助けたいと思ったから。 【手伝う】 ・友達だから。 ・相手が困っているから。 【手伝わない】 ・面倒だから。 ・英語が話せない自分には難しそうだから。 ・ケンジは、仲がよくなくても友達であることには変わりがないし、困っている人がいたら助けてあげたいという優しい気持ちの持ち主である。 ・友情の有無でなく、ケンタは何か、大変なことがあって手伝わなかったのかも知れないし、ケンジはたまたま暇で手伝ったのかもしれない。 	<p>◇個人で考え、ワークシートに記入するよう指導する。その後、全体で意見を共有させる。</p> <p>◇個人で考え、ワークシートに記入するよう指導する。その後、4人班による意見の共有、ホワイトボードへの記入をさせ、掲示する。</p> <p>◆「真の友情」について考え話し合うことができたか。(ワークシート・発言・動作)</p>
終末	<p>3 教員の説話を聞き、振り返りシートに記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・気軽に話せて色んなことができる友達に対しては、真の友情を感じる。 ・どんなときでも支え合える人で、思いやりや優しさがなければ真の友情は成り立たない。 ・優しい人がいたり、嫌な人がいたり、色んな人がいる中で、自分が好む相性の友達を探したら、その人と真の友情を結べると思う。 	<p>◇友達関係で悩む生徒への配慮をした説話をするように心掛け、学習を振り返らせることで、道徳的心情を育む。</p> <p>◇振り返りシートに感想を記入させ、匿名で数名の感想を読みあげる。</p> <p>◆学習を振り返り、考えたことや思ったことを記述できているか。(振り返りシート)</p>

※座席表シートは総括的に使う。

(2) 本時の評価

ア 学習状況の評価

積極的に学習に取り組み、自分との関わりで、真の友情について考え方を広げ深めることができたか。

イ 道徳性に関わる成長の様子

望ましい友達との関係についての考えを深め、互いの尊敬と信頼に基づいた友情を育てようとする気持ちをもつことができたか。

6 指導の実際

本時は特に「振り返りシートの活用」に重点を置き検証を行った。

一枚のシートに毎時間生徒が学び取ったことを記録し、学期を通して生徒や授業者が見返すことが生徒の変容を把握するのに有効となるかという観点から検証授業を行った。

振り返りシートの形式は、授業の最後の5分程度の時間で記入できる記述式としたため、生徒は、授業ごとに素直な感想を記入できていた。教員は、多様な意見から、生徒の本質的

な有様を捉えることができた。また、振り返りシートは、見開きの一枚のシートにまとめられるような体裁にしたため、以前は、道徳の時間に生徒が考えを広げ深めたとしてもそれを思い起こす場が少なく、道徳の授業が単発的になりがちであったという課題の解消につながった。作成の際に想定したとおり、生徒にとっても教員にとっても学習状況を容易かつ継続性をもって把握することができた。実際に、授業の最後に本時の振り返りを記入する際に、「今まで記入したことを見返してみると、前よりも深く考えることができてきていて、自分の成長を感じられる。」と言葉にする生徒もいた。さらに、本シートは、継続性をもって変容を見取れるだけでなく、ローテーションで授業をするなど複数の教員が道徳の授業を担当するに当たり、情報共有のための有効なツールとしても機能した。

7 振り返りシート

【振り返りシート（表表紙・裏表紙）】

<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">特に印象に残っている授業</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">その授業を選んだ理由</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> </table>	特に印象に残っている授業	その授業を選んだ理由							<p>第 学年 学期 道徳振り返りシート</p>
特に印象に残っている授業	その授業を選んだ理由								
<p>今学期の道徳の授業を振り返って <small>(道徳の授業後に実践したことや、自分や自分の生き方について考えたこと)</small></p> <div style="border: 1px solid black; height: 60px; width: 100%;"></div> <p style="text-align: center;">組 番 氏 名</p>	<p>組 番 氏 名</p>								

学期の道徳の時間を振り返るための記入欄を設けた。
上の欄は、特に印象に残っている授業について記入する。
下の欄は授業後に実践したことや自分について又は自分の生き方について考えたことを記入する。これらの記述内容を生徒の評価や授業改善に役立てる。

【振り返りシート（見開き部分）】

<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 20%;">第1回</td><td style="width: 10%;">月</td><td style="width: 10%;">日</td><td style="width: 60%;">【教材名】</td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </table>	第1回	月	日	【教材名】													<p>組 番 氏 名</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 20%;">第6回</td><td style="width: 10%;">月</td><td style="width: 10%;">日</td><td style="width: 60%;">【教材名】</td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </table>	第6回	月	日	【教材名】												
第1回	月	日	【教材名】																														
第6回	月	日	【教材名】																														
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 20%;">第2回</td><td style="width: 10%;">月</td><td style="width: 10%;">日</td><td style="width: 60%;">【教材名】</td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </table>	第2回	月	日	【教材名】													<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 20%;">第7回</td><td style="width: 10%;">月</td><td style="width: 10%;">日</td><td style="width: 60%;">【教材名】</td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </table>	第7回	月	日	【教材名】												
第2回	月	日	【教材名】																														
第7回	月	日	【教材名】																														
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 20%;">第3回</td><td style="width: 10%;">月</td><td style="width: 10%;">日</td><td style="width: 60%;">【教材名】</td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </table>	第3回	月	日	【教材名】													<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 20%;">第8回</td><td style="width: 10%;">月</td><td style="width: 10%;">日</td><td style="width: 60%;">【教材名】</td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </table>	第8回	月	日	【教材名】												
第3回	月	日	【教材名】																														
第8回	月	日	【教材名】																														
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 20%;">第4回</td><td style="width: 10%;">月</td><td style="width: 10%;">日</td><td style="width: 60%;">【教材名】</td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </table>	第4回	月	日	【教材名】													<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 20%;">第9回</td><td style="width: 10%;">月</td><td style="width: 10%;">日</td><td style="width: 60%;">【教材名】</td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </table>	第9回	月	日	【教材名】												
第4回	月	日	【教材名】																														
第9回	月	日	【教材名】																														
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 20%;">第5回</td><td style="width: 10%;">月</td><td style="width: 10%;">日</td><td style="width: 60%;">【教材名】</td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </table>	第5回	月	日	【教材名】													<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 20%;">第10回</td><td style="width: 10%;">月</td><td style="width: 10%;">日</td><td style="width: 60%;">【教材名】</td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </table>	第10回	月	日	【教材名】												
第5回	月	日	【教材名】																														
第10回	月	日	【教材名】																														

見開き部分にも記名欄を設けることで、今学期に、誰がどのような変容をしたのか把握しやすくするための工夫とした。

【生徒Aの振り返りシート（3回分の振り返り）】

第7回	11月7日【教材名】スキルアップを目指そう
自分も家族も友達も、すべて大切に出来るようになる人になりたいです。そして、困っている人をたくさん助けられるようになりたいです。	

第8回	11月21日【教材名】いつもいっしょに
人生に友達がいないとつまらないと思った。親友は、ゆくり時間をかけて作るものだと分かった。親友は、心から話せる、心から信用している人だと思ふ。	

第9回	11月26日【教材名】友情について考える
皆の話聞いて分かったのは、KはTさんのことを考えてメールを返信しなかったのではなかったかということ。新しく出会う日本人とのコミュニケーションをとれるようにお手伝いしてほしいとKは思ったのかもしれない。何でも手伝いあげるとか、本当の友達じゃない気がした。	

【生徒Bの振り返りシート（3回分の振り返り）】

第7回	11月7日【教材名】スキルアップを目指そう
人の悩みを考えるなら、解決するまで一緒に考えていかねければいけないなと思いました。	
人それぞれの考え方があから、無理に自分の意見を通そうとすると悪化することもあるんだなと思いました。	

第8回	11月21日【教材名】いつもいっしょに
親友とは、ずっと笑顔で寄り添ってくれるような感じで、相手が居なくなっても相手のことを思っている人運の関係を言うのではありませんかと思ふ。今、親友と思える人たちとの仲を悪くしたいようにしていきたいと思ふ。	

第9回	11月26日【教材名】友情について考える
Tさんの友情とは何かを考えた時、友情とは言葉に下りても形で表せばいいものだから、人によって考え方が違うんだと思ふ。考え方が違えば、感じ方も違うから、相手のことを思いつながら生活できるといいなと思ふ。	

VI 研究の成果と課題

三種の学習記録（座席表シート、ワークシート、振り返りシート）については、いずれも検討を重ねた上で作成したが、実際に検証授業において使ってみると、以下のような成果と課題があることが分かった。

1 成果

(1) 座席表シート

ア 記入時間の確保について

(ア) 担任等が一人で授業を行い、本シートを使用する場合

あらかじめ1単位時間当たりの授業で見取る対象生徒数を一班程度の人数で決めておくと、記入時間を確保することができた。

(イ) TTによる授業を行い、本シートにT2が記入する役割を担う場合

授業者が机間指導を行える班ごとの話合いの場面における発言等だけでなく、授業者が全体指導を行ったり切り返しの発問をしたりしている場面における発言等を記録する時間を確保することができた。

イ 記入内容について

(ア) 担任等が一人で授業を行い、本シートを使用する場合

あらかじめ見取りの視点（発言、うなずき、動作等）を焦点化しておく、教材やねらいに則した見取りを、少ない語数で記録することができた。

(イ) TTによる授業を行い、本シートにT2が記入する役割を担う場合

発言以外のつぶやきや動作等、細かい内容まで記録することができた。また、記述や発言等を言語化することが苦手な生徒の反応も記録することができた。

(2) ワークシート

ア 生徒の変容の見取りについて

(ア) 事前にアンケートを実施することで、授業前後の生徒の変容を見取ることができた。

(イ) 授業中に記述させる意見記入欄は、話合い前、友人の考え、話合い後のそれぞれについての欄を設けることで、生徒の変容を見取ることができた。

(ウ) 全ワークシートをひとまとめにするために、生徒にファイリングさせたり、ポートフォリオを作成させたりすることで、学期ごとの生徒の変容を見取ることができた。これにより、年間を通じた生徒の変容を見取ることも期待できる。

(3) 振り返りシート

ア 学習の深まりについて

(ア) 生徒が、本シートに記述した内容を基に、道徳の授業を1単位時間のみのものではなく、一学期間の流れとして捉えることができ、考えをより深めるきっかけとなった。

(イ) 生徒が、一学期間を通じた自分自身の考えを、本シートから振り返ることができた。

(ウ) 授業ごとに教材名を書く欄を設けたことで、生徒の記述と併せて教材を振り返り、実施時期等、教材選定に対する改善の機会となった。

イ その他

(ア) ローテーションで授業をするなど複数の教員が道徳の授業を担当するに当たり、他の

- 教員の授業内容や生徒の考えを把握するための情報共有の有効なツールとして機能した。
- (イ) 生徒は、毎回の授業の最後に本シートを繰り返し使用して記述を行うことで道徳の授業について見通しをもつことができ、安心して学習に臨むようになった。
 - (ウ) 学期ごとの授業が見開き1枚のシートにまとまっていることで、担任は、評価を実施する際、生徒の個別の成長を見取ることができた。次年度から、道徳の教科化が完全実施されるに当たり、一人一人の生徒の成長の様子を見取るための手だてとして有効であると実感した。

2 課題

(1) 座席表シート

ア 記入時間の確保について

(ア) 担任等が一人で授業を行い、本シートを使用する場合

授業者は、机間指導を行える班ごとの話合いの場面における発言等は記録できるが、全体指導を行ったり切り返しの発問をしたりしている場面における発言等を記録する時間を確保することが難しい。

(イ) TTによる授業を行い、本シートにT2が記入する役割を担う場合

授業者は、T2に授業の流れや発問の視点、話合い活動等をさせる時間を事前に打ち合せ、主にどの場面で記録してほしいか伝えておく必要がある。

イ 記入内容について

(ア) 担任等が一人で授業を行い、本シートを使用する場合

教材やねらいに則した内容の記録を、端的に行う必要がある。

(イ) TTによる授業を行い、本シートにT2が記入する役割を担う場合

教材やねらい、授業者の指導の意図等について、事前にT1とT2が入念に打ち合せを行う必要がある。

(2) ワークシート

ア 生徒の変容の見取りについて

- (ア) 書く活動においては、同じような考えを書き表す場合であっても、生徒の記述の能力差によって表現力に個人差が生じる。また、自分の考えに合った適切な言葉を用いての意見の表出ができない生徒もいる。したがって、授業者は、書かせる内容や時間についてよく検討した上で、教材やねらいに則した生徒の変容の見取りを行えるようなワークシートの作成をする必要がある。

(3) 振り返りシート

ア 学習の深まりについて

- (ア) 全教員が本シートの活用の在り方について、共通理解を図ることが大切である。
- (イ) 生徒の変容を把握することが評価することにつながる。そこで、生徒にポートフォリオを作成させるなどの指導上の工夫をし、生徒のよさを柔軟に認めていくことが必要である。

平成 30 年度 教育研究員名簿

中学校・特別の教科 道徳

学 校 名	職 名	氏 名
練馬区立豊溪中学校	教諭	佐藤 聖子
葛飾区立上平井中学校	指導教諭	◎太田 恵理子
江戸川区立松江第四中学校	主任教諭	櫻井 英子
調布市立第八中学校	教諭	高木 克将
国分寺市立第三中学校	教諭	綾部 恵

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教職員研修センター研修部授業力向上課
指導主事 今野 稔恵

平成 30 年度

教育研究員研究報告書
中学校・特別の教科 道徳

東京都教育委員会印刷物登録
平成 30 年度 第 135 号

平成 31 年 3 月発行

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話番号 (03) 5320-6849
印刷会社 康印刷株式会社